

# 京都産業大学 ことばの科学研究センター 2024年度第3回研究会

日時：2024年7月24日（水）14:00～16:00

場所：4号館2階 総合学術研究所

## マルロー『王道』とインドシナ山地民

井上俊博（外国語学部准教授）

アンドレ・マルローが1930年に発表した小説『王道』は、仏領インドシナとシャムを舞台とする冒険小説である。本作の背景にはインドシナ半島に侵出し植民地支配を行うフランス・イギリスと、これらの勢力に挟撃されるシャムというインドシナ半島が経験した歴史的展開が存在している。また、本作中には数多くのインドシナ山地民が登場し、物語展開のキーとなっている。本発表では、作中描き出されたこの山地民達の存在に着目し、英仏のインドシナ半島侵出がこの地にもたらした歴史的展開に対するマルローの視点を考察していく。

## プラトンの問題と階層構造の獲得

－日本語の数量詞遊離現象を中心に－

鈴木孝明（ことばの科学研究センター研究員・外国語学部教授）

言語獲得におけるプラトンの問題をとりあげる。この問題に取り組む多くの研究がインプットの貧弱さに関する実証的データを提示することなく、アウトプット（個別言語の文法）の複雑さに焦点を当ててきた。本発表では日本語の数量詞遊離現象に見られる主語と目的語の非対称性を階層構造に依存した規則ととらえ、幼児がこれに関する言語知識を有すること、さらにその知識はインプットから帰納的に導き出すことが困難であることを示す。